

令和5年度 長野県福祉大学校 学校評価表

評価 A：目標を上回った B：ほぼ目標どおりできた C：目標を下回った

学校教育目標	重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
保育及び介護福祉に関する専門的技術と知識を修得し、しあわせを創造する力を養うフィールドとして、愛情豊かな心を育み、誰からも愛される福祉人材を育成する。	創造力に富み、誰からも愛される人材、地域を愛し地域に貢献する人材、主体的に学び行動できる人材を育成する。	<p>学生が社会を構成する一員として、様々な課題に対して、主体的に取り組む姿勢を醸成し、地域とのつながりを意識し、持続可能な地域づくりに貢献する人材の育成に努めた。食育や発達障害、回想法等に関する専門性ある講義を公開し、地域福祉職員や地域住民に学びの機会を提供した。さらに、まちづくりフォーラムや地域防災訓練を通じて、地域の担い手として活動する意義を学ぶ機会を設けた。保育実習室との連携により、学生の実践力を向上させ、子どもの主体性を尊重した学びの場を提供した。また、体験活動（カヤック体験やポニー体験や美術館鑑賞）により、地域の文化や歴史に触れ感性を養い、ボランティア活動を通じて、社会や地域に対する意識を高め、学生一人ひとりが豊かな心を育てる一助とした。また、感染症対応では、校内感染状況により、オンライン授業の併用などにより柔軟に対応し、学びを継続し質の確保に努めた。</p>		B
	今年度の重点目標	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
実践力を重視した専門教育で、しあわせを創造する最前線で活躍する人材を育成する	<p>○保育実習室を最大限に活用し、学生と保育園児が主体的に学べる環境づくりに力を入れた。学生は運動会、発表会、SDGsについて創意工夫をすることで、実践力を身につけた。</p> <p>●来年度（令和6年度）から、保育実習室は（民間による認可保育所）となる。実践力を高める学習の充実に向けて、スムーズな引継ぎとともに、十分な演習の調整が必要である。</p> <p>○特別講義、公開講座を実施することにより、福祉の専門的な知識や技術を学ぶとともに、SDGsや食育、発達障害等の理解により学生一人ひとりが、社会の一員として、何が大切か考え行動することへ繋がった。</p> <p>○保育学科は、実習室の移管に併せてより時代のニーズに即したカリキュラムになるよう検討を行った。本校の魅力である保育園の活用、ボランティア活動など、地域との連携等を重視し、新カリキュラムを編成した。（令和6年4月から開始）</p>	<p>○保育園移管に伴い保育園職員との綿密な引継ぎ、園児や学生の情報交換を丁寧に実施する。</p>	B	
信州の豊かな自然・歴史・伝統を愛し誇りを持ち、社会福祉を通じて、持続可能な地域づくりに貢献する人材を育成する。	<p>○ボランティア活動（子ども食堂や読み聞かせ、諏訪湖の美化等）、世界自閉症啓発デーへの参加、人とのつながりを意識し、社会やニーズへの理解が深まった。</p> <p>○支援する会、同窓会の支援により、北澤美術館、イルフ童画館SUWA ガラスの里の芸術鑑賞、カヤック体験、保育園児と一緒にポニー体験をした。また校内の季節の装飾に合わせて、季節の彩り、季節行事の由来や込められた願い等を深く掘り下げて学ぶ機会とし、五感を磨いた。</p> <p>○文化祭（ひまわり祭）にて、各学年の学習成果の発表をした。発表することで、他の学生と情報を共有し、新たな視点や気づきを得ることができた。また、その学びを実習で生かし、実践へと結びつけた。</p> <p>○同窓会から、多様なジャンルの本を寄贈された。新しい本に出会い、本の中の言葉や場面や心情を想像しながら、本の良さを再発見することができた。</p>	<p>○引き続き、地域の行事へ参加する。ボランティア活動等を通して、地域社会とつながりを深めながら、地域社会の一員としての規範を学ぶ機会を設ける。</p>	B	
みんなのしあわせのために、自らとるべき行動を学び、考える力を養い、目標に向かって行動できる人材を育成する。	<p>○諏訪市と本校が、災害時における避難所等として施設利用に関する協定を結び、9月に地域の方と防災訓練の実施をした。主体的に行動力のある学生に、避難者の誘導等、地域の皆さんからも評価を得た。</p> <p>○「まちづくりボランティアフォーラム2023」、「諏訪広域介護フェスタ（45団体）」に参加し、地域の方と交流し、地域や社会の一員としての責任を考える機会となった。</p> <p>○文化祭（ひまわり祭）・卒業記念音楽会は、4年ぶりに制限なしの一般公開となり、自分たちだけでなく来場した方々も楽しめる内容とした。また文化祭で行ったパザーの収益を活用し、諏訪市図書館に絵本20冊を寄贈した。多くの方が来場し、学びの成果の提供や地域との交流をし、地域社会への理解や貢献意識を高めた。</p> <p>●更に、学生と地域住民が交流できるような機会を作ること、学生が自ら社会課題について考えることが大切である。</p> <p>○就職活動について、外部講師によるキャリアデザインセミナー（教養対策、面接対策）、外部機関（マイナビ、ハローワーク、ジョブカフェ、社会福祉協議会等）や保育実習室の活用により、学生は個々の適正を認識し、就職に必要な基本的スキルを身につけた。また個々の学生に丁寧に対応し、学生全員が希望する就職先に内定した。</p>	<p>○学生が社会課題を、自ら意識し行動に移せるように取り組む。また福祉の専門的知識の啓発をしていく。</p>	B	
本校の魅力を発信し、誰からも愛される福祉人材を育成し、志の高い学生を確保する。	<p>○パンフレットを大幅にリニューアルした他、ホームページ・Instagramの活用、また本校イベント（オープンキャンパス、文化祭、卒業記念音楽会等）による高校生等への啓発、加えて学校訪問により本校の魅力を伝えた。また、本校を希望する生徒等が受験しやすいように、複数回の受験機会の設定やオープンキャンパスでの個別相談など、受験しやすい環境に努めた。</p> <p>●一般選抜終了時点で48名の合格者が決定しているが、併願者の辞退を見込むと本年度も定員に満たない見込みとなっている。高校進路担当者とのコミュニケーションを深め、本校入学のメリットを具体的にアピールしていく必要がある。</p> <p>●進路の方向性が固まる前の高校1、2年生へのアピールの強化が必要である。広報活動等メディアの活用、チラシの工夫等で、本校の魅力等を考え、ストーリー性ある情報発信する必要がある。</p>	<p>○高校1、2年生をターゲットに、戦略的な広報を検討していく。</p> <p>○本校の強みや魅力が、わかりやすい発信を強く意識して、ストーリー性のある情報発信を工夫する。</p>	B	

評価 A：目標を上回った B：ほぼ目標どおりできた C：目標を下回った

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
教育活動	教授	実践力を重視し専門教育で、しあわせを創造する最前線で活躍する人材を育成する。	保育・介護現場が抱えている現在の課題に対応する学習の機会を提供したか。	<p>○保育学科1年生は、多角的に「食」を学ぶ特別講義を実施した。食と農業をテーマに、「食と健康」「食と社会」「食育」から食育の重要性、農福連携、「信州の伝統野菜」まで多角的に学んだ。講義終了後、保育園児と一緒に、空き容器をミニプランターとして再利用し、野菜の種をまいた。学生はその後自宅等で野菜を育て収穫し、料理した写真をとり学内で発表した。学生は、食や健康への興味や関心を持ち、食育の大切さを学んだ。</p> <p>○発達障害について、特別講義（基礎編、実践編）を実施した。保育学科1、2年生が受講し、また公開講座として地域福祉職員（保健師、保育士、介護福祉士、社会福祉士等）も多数参加し、発達障害の正しい理解と支援方法について学んだ。学生は地域の方の熱心に学ぶ姿に刺激を受け、学習意欲の向上に繋がった。また、地域にアピールし、本校を知る機会となった。</p> <p>○公開講座として介護福祉学科では、回想法の実践（レコードコンサート）、手話講座、パラリンピック出演の川崎さんによるミニコンサートを開催した。地域の方と一緒に学ぶことで、交流する機会となり、多様な視点や知識が共有され、地域における自分の役割を理解した。</p> <p>●特別講義は現在の課題について、より専門性を学べる機会である。また公開講座にすることで、地域の方の学びの場にもなる。今後講座の内容により、対象範囲を（一般市民、施設職員、福祉専門職等に呼びかけ等）を検討し、より多くの方に対し、体系的に学びの共有していく必要がある。</p> <p>○介護福祉学科は、介護のすばらしさや介護の仕事への理解を発信するため、長野県介護技術コンテストへ2チーム参加し、最優秀賞（長野県知事賞）と優秀賞（介護福祉士養成施設連絡会賞）を受賞した。学生は意欲的に取り組み、考える力やスキルの向上に寄与するとともに、介護に対する志を高くした。</p> <p>●介護人材不足の現状がある中、学内の授業だけではなく、もっと幅広く地域に向けて介護職の価値を発信していく必要がある。</p> <p>○学生に授業に取り組む意欲をアンケート形式による調査（授業実態調査）を行い、各授業の課題を明らかにし、授業改善に取り組んだ。5段階評価の結果、おおむね3普通以上の評価であった。演習・実習科目が多く、体験する科目は満足度が高い。反対に社会制度の概論等、座学や記憶系の科目についての評価が低く、難しいと感じる学生がいる。講師会議等で授業方法や学生の特性等について意見交換（実物を見せるや体験談等を交えるなど）し、今年度の授業に反映した。</p> <p>●学生は授業がわかると、意欲の向上に繋がる。講師から、わかる授業や興味をひく授業方法について講師会議等で情報を共有したいとの声が多い。昨年度同様に講師会議等で情報交換しながら、効果的な授業展開に取り組む必要がある。</p> <p>○保育学科は、時代のニーズに即した新しいカリキュラムの検討を行った。本校の魅力である保育園の活用、ボランティア活動など地域との連携を軸に検討し、令和6年4月から保育学科1年生から適応となる。</p>	<p>○特別講義・公開講座を継続して開催する。講義内容により、対象範囲を検討し、より多くの方に学びの共有の場を提供していく。</p> <p>○来年度も学習の成果の発表、介護の仕事のすばらしさを発信するため、ケアコンテストへ応募し、幅広く啓発・発信していく。</p> <p>○講師会議等で、各講師が授業方法や学生の特性等について、意見交換をし、教育効果を高めていく。</p>	B
		幼稚園免許取得に向けて、希望者全員が免許を取得したか。	<p>○保育学科2年生は、36名が取得した。</p> <p>○1年生は44名のうち39名が併修している。</p> <p>●経済的事情、学力不足、進路変更等、さらに精神的不安などから取得に対するモチベーションの維持が課題である。</p>	○希望者には、取得に対する意欲、経済的状况、学力等を十分確認する。また、学習に対し適切なサポートをする。	B	
		万全な介護福祉士国家試験対策により、学生全員が国家試験に合格したか。	<p>○国家試験対策模試、個別対応を実施し、全員が合格の見込み。（自己採点の結果）合格発表は3月25日</p> <p>○国家試験受験資格化（平成29年度）以降、本校の合格率は100%である。</p>	○引き続き、学生全員が国家試験に合格し、資格取得できるよう個々のスキルに合わせて指導する。	A	
		保育実習室を最大限に活用し、保育現場のスキルの定着に努め、実践力に繋がる学習となったか。	<p>○教科目「保育実習室演習」では、保育テーマの設定、それに基づくねらいや活動内容を学生同士で考え指導案の作成、実施、評価をした。テーマを設定することで、演習グループ内で保育の方向性を統一することができ、単に「自分の挑戦したい活動」ではなく、テーマに沿った「子ども主体の活動」を考案しようとする姿勢が見られた。また、演習の様子を撮影した動画を活用し、グループ全員で振り返ることで、学生個々の保育の課題や考察の視点、子どもとの接し方、悩み等を具体的に共有することができ、課題の解決方法についても、自分ごととして意見を出し合い、解決の手立てを探る機会となった。</p> <p>○教科目「保育原理Ⅱ」では、運動会演習、発表会演習、SDGsをテーマにした企画の3本立ての演習とし、他者に遠慮することなく、自分の強みを存分に発揮するよう指導した。学生の主体性を重視した役割分担とすることで、自ら考え、動き出す学生が多かった。運動会では組体操、発表会では園児の強みを生かした発表に携わることで、園児個々の内面に着目し、「やりたい」気持ちを尊重しながら発表の形を創り上げることについて、学生同士で創意工夫を重ね、園児と共に達成感を得ることができ、実践力を身につける一</p>		B	

			<p>助となった。</p> <p>昨年に続くSDGsをテーマにした企画では、現時点での日本の課題について、園児が楽しく学べる環境を考案した。SDGs達成率の高いフィンランドを紹介しながらジェンダー平等に触れられる他国の友達と交流するコーナー、食品ロスや廃棄物削減に関わるお店屋さん、令和6年能登半島地震に触れ、防災について学ぶ、防災ポーズゲームや避難所での防寒着作り体験、海の現状を知る魚釣りゲーム、野菜や家庭菜園の大切さに触れるクイズゲーム等を実施した。学生は、園児が理解しやすいよう、手作り絵本やスライドを作成し、楽しみながら防災や社会環境に触れられるよう遊びの環境に創意工夫を凝らした。この演習から、SDGsについて自ら学び、我が身を振り返り自省する学生もおり、園児に「明日からできること」を問いかけながら、学生自身も考える機会となった。</p> <p>●来年度（令和6年度）から、保育実習室は（民間による認可保育所）となる。実践力を高める学習の充実に向けて、スムーズな引継ぎとともに、十分な演習の調整が必要である。</p>	○民間事業者との綿密な引継ぎや演習方法の調整、園児や学生の情報交換を丁寧に実施する。	
	<p>信州の豊かな自然・歴史・伝統を愛し誇りを持ち、社会福祉を通じて、持続可能な地域づくりに貢献する人材を育成する。</p>	<p>体験活動等により、豊かな感性を養う広い視野から社会と自分の行動を学び得る機会の提供に努めたか。</p>	<p>○支援する会と同窓会の支援により、保育学科1年生は北澤美術館、2年生はイルフ童画館と諏訪湖でカヤック体験、介護福祉学科はSUWA ガラスの里を鑑賞した。学生は、美術館で本物のガラス作品等に触れ、地元ゆかりのある美術、工芸作品の魅力を探求・再発見することにつながった。カヤックで、風や水等を感じ、地域の文化や五感を全身で感じ、感性が磨く機会となった。また様々な地域から集まった学生が、諏訪市の魅力を感じ素敵な機会となった。</p> <p>○支援する会の協力により、ハーモニーセンター蓼科ポニー牧場から、乗馬・ふれあい体験をプレゼントされた。保育学科学生と園児（学生がポニーの両サイドにつき、園児をサポート）が乗馬とポニーに人參をあげる体験をした。馬との触れ合いにより、穏やかな雰囲気の中、感性が磨かれた。</p> <p>○今年度で3年目となる世界自閉症啓発デー（4月）に参加した。シンボルカラーである「青い」鳥をフェルトで作成し、ブルーライトツリーを制作した。諏訪市のライトアップ除幕式（市役所）に参加し、自閉症、発達障害について理解を深めた。</p> <p>○各学年の学習成果について、文化祭（ひまわり祭）で発表をした。保育学科1年生は実習の学びを模造紙で掲示、2年生は教科目「造形表現」で制作した作品と、教科目「臨床心理学」での学びを模造紙等で掲示、介護福祉学科は、教科目「障害の理解」で、保育実習室における視覚支援グッズの活用と教科目「介護の基本B」で回想法の学びを模造紙にまとめ掲示した。発表することで、学生は普段の授業の学びを整理し他の学生と共有することで、新たな視点や気づきを得ることができた。また、その学びを実習で生かし、実践へと結びつけた。</p> <p>○1階のホール中心に季節の飾り（4月さくらの壁画、5月は五月人形とこいのぼり、6月は雨しずく飾り、7月は七夕飾り（地域の方から笹をもらう）、8月はひまわり飾り 9月はお月見飾り、12月はクリスマス飾り、2月はお雛さま飾り）を、学生や保育園児と一緒に作成した。季節や行事に係わる理解を深め、制作や表現のスキル等を学ぶ機会とした。</p> <p>○「ひな祭り」に合わせて、同窓会によるおひな様の由来や込められた願い、「ひなまつり」の歌詞に込めた意味の講義を聞き、園行事である季節の行事について深く学ぶ機会となった。</p> <p>○同窓会から令和6年2月、学生に本を48冊（最新のベストセラーから専門書まで）寄贈される。学生は「久しぶりに本を読んで、楽しい、ワクワクした気持ちになった」との感想があり、新しい本に出会い、本の中の言葉や場面や心情を想像しながら、本の良さを再発見することができた。</p> <p>●学生は授業やアルバイト、スマートフォン等のメディアの普及により、本に触れる機会が減っている。学生時代にいろいろな本触れ、たくさんの言葉や考えを吸収し、語彙力の向上や他者の気持ちを理解する力を養えるよう、蔵書の充実を図る。</p>	○体験は、自ら考え学ぶ力の基礎となるため、感性を養う体験を積極的に取り入れる。	B
		<p>地域、社会の一員として行動する重要性を伝える機会を提供したか。</p>	<p>○毎年、保育学科2年生、介護福祉学科学生に対し、諏訪市人権擁護委員の方による人権教室を開催している。保育園の1日を想定した寸劇をみながら、福祉に関わるものとして、子どもの権利を意識した行動を考え、人権感覚を磨いた。</p> <p>○就職予定の学生に対し、令和6年2月にフレッシュアップセミナー研修を開催した。危険ドラッグやオーバードーズ等に関する薬の知識や、社会人として必要な名刺交換や電話対応スキル、社会で必要な人材とは何かをグループワークし、自分の置かれている立場を意識する機会となった。</p>	○学生が、読書しやすい環境（本の配置、新書コーナーの設置 学生への周知等）を整えていく。	B
課外指導	<p>みんなのしあわせのために、自らとるべき行動を学び、考える力を養い、目標に向かって行動できる人材を育成する。</p>	<p>社会を構成する一員として、社会課題を意識し、主体的な行動に繋がる指導をしたか。</p>	<p>○諏訪市と本校が、災害時における避難所等として施設利用に関する協定を結び、9月に地域の方と防災訓練の実施をした。主体的に行動力のある学生に、避難者の誘導等、地域の皆さんからも評価を得た。</p> <p>○「まちづくりボランティアフォーラム2023」（長野県社会福祉協議会の主催）を本校で開催した。諏訪圏域の市町村社協、JC、民生委員や各方面の有識人が各セッションに分かれ様々な地域社会の課題について懇談した。本校の学生も多数参加し、世代間交流の分科会でシニア大学の方とトークセッションに参加したことで、普段接する機会の少ない世代の方や地域の方々とは年代関係なく楽しく過ご</p>	○関係する機会や機関等と積極的に連携し、社会課題に対して、主体的に行動することを学ぶ機会を提供する。	A

		<p>す体験ができた。そして地域や社会の一員としての責任を考える機会となった。</p> <p>○「諏訪広域介護フェスタ（45 団体）」に参加し、介護の啓発をした。介護福祉学科学生が「回想法」について模造紙にまとめ掲示し、来場者に手作りのクルクルレインボーをプレゼントした。多くの来場者があり、本校及び介護についてPRし、介護について考える機会となった。</p> <p>●カリキュラムの関係等により、多くの学生が地域と共に学ぶ機会が確保しにくい状況にある。なるべく参加できるように、早い時期から計画できると良い。</p> <p>○文化祭（ひまわり祭）・卒業記念音楽会は、4年ぶりに制限なしの一般公開となり、自分たちだけでなく来場した方々も楽しめる内容とした。多くの方が来場（文化祭は500人、卒業記念音楽会400人）し、学びの成果の提供や地域との交流を通じて、地域社会への理解や貢献意識を高めた</p> <p>○文化祭（ひまわり祭）のバザーの収益を活用し、諏訪市図書館に絵本20冊を寄贈した。学生は「子どもたちに喜んでほしい。子どもに感性を育ててほしい」と願いを込めた。そして地域の方とのつながりから、地域の一員であることを実感した。</p> <p>○諏訪圏域保育専門相談員を講師に、保育現場の実態と保育士の仕事に必要なスキルや求められている資質等の話を聞き、自ら描く保育士像の具体化、プランアップの機会とした。</p>	<p>○カリキュラムについて、なるべく早期（前年度3月頃まで）に調整できるように努力する。</p>	
	自ら社会課題の解決につながるようなアクションがみられたか	<p>○ボランティア活動として、地元で行われている子ども食堂に学生が参加し、地域に根差す活動を体験することができた。また、かみすわサマーマーケット・秋祭り・読み聞かせ、諏訪湖清掃等、多種多様なボランティアに参加することにより多角的な視点で社会を考える一助となった。</p> <p>●ボランティアへの関心は必ずしも高くない。ボランティアに参加する意欲を高める必要がある</p> <p>○福祉クラブとして、手話クラブ（月1回聴覚障害当事者の講師による手話の勉強会）、夢ポッケクラブ（知的障害者との交流会）、お話の森クラブ（図書館などで子どもたちの読み聞かせやエプロンシアター等を行う）が活動し、専門性が高まり、スキルが向上した。</p>	<p>○引き続きボランティア等を通じて地域の方との交流の機会を作っていくこと、またボランティアの意義等を学ぶ機会をつくり、意欲的に参加できるようにしていく。</p>	B
	適切な支援により、個々の学生に適した就職に繋がったか。	<p>○学生一人ひとりの進路希望に合わせ、採用情報を発信した。個々の学生に適したエントリーシートの添削や面接の練習などに対応し、学生ごとに担当教員を配置、個々に応じた進路の相談・助言・指導を重ねた。</p> <p>キャリアデザインセミナーとして、教養対策講座と面接対策講座を実施した。教養対策講座は、公務員教養試験対策として、4月から7月にかけて合計25回実施した。面接対策講座は、外部講師による就職先の選び方や就活の進め方から、個別・集団面接、グループ討論を実施した。</p> <p>就職の際に、より個別対応が必要な学生については、外部機関（ハローワーク、社会福祉協議会、マイナビ、ジョブカフェ等）とも連携して支援し、全員の就職内定に結びつけた。</p> <p>○保育学科1年生は県内の6市町村の保育士採用担当者から、就職活動に対する現状や求める保育士像を聴講し、保育士への就職意欲の向上に努めることができた。</p>	<p>○引き続き、一人ひとりの希望をていねいに聞き取り、個別に対応していく。</p>	B

学校運営	学生募集	志の高い学生の応募に繋げるため、本校の魅力を発信し、誰からも愛される福祉人材を育成する。	本校の魅力を明快かつ適切に発信し、志の高い学生の応募に繋がったか。	<p>○パンフレットを大幅にリニューアルしたほか、ホームページ・インスタグラムの活用、また本校イベント（オープンキャンパス、文化祭、卒業記念音楽会等）による高校生等への啓発、加えて学校訪問により本校の魅力を伝えた。また、本校を希望する生徒等が受験しやすいように、複数回の受験期会を設定、オープンキャンパスでの個別相談など、受験しやすい環境に努めた。</p> <p>●一般選抜終了時点で48名の合格者が決定しているが、併願者の辞退を見込むと本年度も定員に満たない見込みとなっている。高校進路担当者とのコミュニケーションを深め、本校入学のメリットを具体的にアピールしていく必要がある。</p> <p>●進路の方向性が固まる前の高校1、2年生へのアピールの強化が必要である。広報活動等メディアの活用、チラシの工夫等で、本校の魅力等を考え、ストーリー性ある情報発信する必要がある。</p>	<p>○高校1、2年生をターゲットに、戦略的な広報を検討していく。</p> <p>○本校の強みや魅力が、わかりやすい発信を強く意識して、ストーリー性のある情報発信を工夫する。</p>	B
教育施設の適正な運営	感染症のリスクを最小限にし、様々な教授を行う。	感染防止対策の徹底により感染リスクを下げ、効果的に授業を実施できたか。	<p>○今年度は新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）も含め、インフルエンザ等の多くの感染症に罹患する学生が継続的に発生し、オンラインを併用した授業や課題学習等により、授業進度に即した履修課程を可能とした。また、オンライン授業は災害時（公共交通機関の停止等）にも活用し、自宅、アパート等で学びを継続した。以上により、全員が必要な単位を取得し、卒業及び進級となった。</p> <p>○令和6年2月、セイコーエプソンからパソコン5台の寄贈を受けた。経済的に課題を抱える学生等に対し貸与し、学習環境を整え、確実な学びを実現していく。</p> <p>●今後も、コロナやインフルエンザ等の感染症、また災害等により、オンライン授業の併用は必須となる。非常時にスムーズに切り替えられるよう、体制を維持していく。</p>	○引き続き、感染対策に取り組みながら、ネット環境の整備等に努め、オンラインや課題学習等で、教育効果を高めていく。	B	
	教育施設の適正な管理をする。	快適かつ安全に学べる環境の維持に取り組んだか。	<p>○今年度、屋根改修を完了した。</p> <p>○照明器具の取替え、空調設備の温度調節器取替など、修繕が必要な個所について速やかな修繕に努め、学習環境の維持に努めた。</p> <p>●更新時期を迎えている設備があり、計画的にリニューアルを行い、環境の維持に努めていく。</p>	○必要な予算の確保に努め、引き続き、必要な対策を講じていく。R6年は、空調機器のリニューアルを実施予定	A	
その他	コンプライアンスを遵守できたか。	教職員や関係者が、学校及び自分のミッションを理解し、目標達成に向けて、取り組んだか。	○授業から学校運営に至るまで法令を遵守し実施している。	○引き続き、コンプライアンスを重視しながら教育活動及び学校運営に取り組む。	B	